
予知夢

sam.spade

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

予知夢

【Nコード】

N8774M

【作者名】

s a m . s p a d e

【あらすじ】

横断歩道の信号待ちをしていたら、青いトラックが突っ込んできた。気がついたときにはトラックは目の前で、避けることもできなかった。

横断歩道の信号待ちをしていたら、青いトラックが突っ込んできた。気がついたときにはトラックは目の前で、避けることもできなかった。

俺は、衝撃と共に跳ね飛ばされた。

「——夢か」

（あー、やな夢だった。明日から期末テストだっていうのに幸先が悪かったらありやしねえ。）

そう思いながら寝汗をシャワーで流した後、仕度を整えて学校に向かった。

学校の帰り、信号待ちしているときにふと気がついた。

（そう言えば、ここだったな。そうそう、あっち側からトラックが突っ込んで来たんだよな。）

そう思っ交差点の方に顔を向けると、こちらに向かって右折している1台の青いトラックが目に入った。まさかと思っていると、みるみる近づいてくる。

「やばっ」

あわてて後ろに飛び退くと、そのトラックがさっきまで自分のいた場所を通り過ぎ、ガードレールにぶつかって白煙を上げていた。

（うわっ、危機一髪。夢で見た通りじゃん。って、もしかして今朝の夢って——予知夢？）

俺は制服についたホコリを払いながら、ほっとすると同時に予知夢という可能性に胸を高鳴らせていた。

明くる朝、テストの夢で目が覚めた。

（よし、はつきり覚えている！ 今日のテストは、これでバッチリだぜ。）

昨日とは打って変わって高揚した気分で学校へと向かった。

学校に着くと俺は席について今朝の夢を忘れないように反芻していた。

そして、テストが始まった。開始の合図と同時に問題を確認した俺は、

（よっしゃ、夢で見た通りの問題だ！）

と、思わずこぶしを握り締めガッツポーズをとっていた。しかし、そのこぶしに込めた力はすぐに行き場をなくしてしまった。

「あ、答えまでは分かんねえや……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8774m/>

予知夢

2010年10月11日18時28分発行